

3. 人間発達科学部

(1) 人間発達科学部の教育目的と特徴	3-2
(2) 「教育の水準」の分析	3-3
分析項目Ⅰ 教育活動の状況	3-3
分析項目Ⅱ 教育成果の状況	3-11
【参考】データ分析集 指標一覧	3-14

(1) 人間発達科学部の教育目的と特徴

1. 人間発達科学部の基本的な目標

富山大学は中期目標において、大学の基本的な目標として、別添資料 3703-i0-0 表 A のような基本理念を掲げ、また人間発達科学部では、この目標を達成するために、同資料表 B のような教育研究上の目的を定め、さらに学科ごとの目的も規定している。

2. 人間発達科学部の特徴

富山大学人間発達科学部は、幅広い教育学の素養を修得させることで、生涯学習、企業内教育、家庭での教育、地域での教育、学校での教育など、乳幼児から高齢者に至るまでの人の発達を支援する「広義の教育」※人材を養成するため、学部を 2 学科 6 コースで構成している。

- ①学部入学定員は、発達教育学科 80 名、人間環境システム学科 90 名の合計 170 名である。各学科はそれぞれ 3 つのコースで構成されており、学生は 1 年次後期よりそれぞれのコースに所属する。
- ②教育課程では「広義の教育」人材を養成するため、1) 人間発達について多面的に理解する入門科目や人間環境創造に関し、体系的に学べるような専門科目、問題解決型・プロジェクト型や学校等の現場で実践的に学ぶ科目を提供し、創造力等を修得させている。2) 乳幼児期の発達を支援する保育士資格や幼稚園教諭免許状、児童・生徒の発達を支援する教員免許状、社会福祉の支援を行う社会福祉士受験資格を取得させ、生涯にわたる人の発達を支援する資質・能力を培っている。3) 多様な興味・関心を持つ入学者に対応できる、多様で柔軟性のあるカリキュラムを編成している。
- ③附属組織として「研究実践総合センター」、「幼稚園」、「小学校」、「中学校」、「特別支援学校」を有しており、教育現場における実践を通して教育・研究を進めている。
- ④富山県、富山県教育委員会、富山県社会福祉協議会、県や市の教育センター等の外部機関との連携・協力を積極的に推進している。なかでも、富山県教育委員会との連携事業では、実践カリキュラムとして開設された複数の授業のなかで、県内学校への学生の派遣によって、現場での学習体験と大学での授業の往還学習が行われている。
- ⑤上越教育大学、富山国際大学と連携し、3 大学連携講座による教員の資質向上を図る取り組みをしている。

※「広義の教育」：学校教員、保育士、社会福祉士、生涯学習・社会教育・企業内教育の指導者、地域活動の指導者など、人の発達を支援し教育する広い範囲の教育活動

(2) 「教育の水準」の分析

分析項目Ⅰ 教育活動の状況

<必須記載項目1 学位授与方針>

【基本的な記載事項】

- ・公表された学位授与方針（別添資料 3703-i1-1～2）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

<必須記載項目2 教育課程方針>

【基本的な記載事項】

- ・公表された教育課程方針（別添資料 3703-i1-1（再掲）、3703-i1-2（再掲））

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

<必須記載項目3 教育課程の編成、授業科目の内容>

【基本的な記載事項】

- ・体系性が確認できる資料（別添資料 3703-i3-1～2）
- ・自己点検・評価において体系性や水準に関する検証状況が確認できる資料（別添資料 3703-i3-3～4）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 本学部6コースで開講する各科目が、ディプロマポリシーに示す「幅広い知識」「専門的学識」「問題発見・解決力」「社会貢献力」「コミュニケーション能力」のどの項目に当てはまるか、カリキュラムマップを活用しわかりやすく学生に示している。
また、取得可能な教員免許ごとに履修モデルを作成し、養成する人材像とともに履修計画を立てる上での一助となるよう明示している。[3.1]
- 平成29年度に、シラバスに記載された内容を参考とし、全ての科目にナンバリング（科目番号制の導入）を行った。また、平成30年度には教員免許再課程認定に伴いナンバリングを見直すなど、常に更新し、科目間の関連が分かるようにしている。[3.1]
- より実践的な理解を図るため、実務経験のある教員による科目数を多く開講しており、富山大学全体の開講数378科目のうち、本学部では123科目（32.5%）開講している（表1参考）。[3.1]

富山大学人間発達科学部 教育活動の状況

表1：実務経験のある教員が実施する専門科目数

学部	人文	人発	経済	理学	医学	薬学	工学	芸文	都市デザイン	合計
科目数	9	123	8	9	99	28	35	23	44	378

- 教育内容を分析・評価するために、学期ごとに学部学生への授業評価アンケートを実施している（別添資料 3703-i3-5、表2参考）。授業評価アンケートにおいては、総合満足度が5点満点中4点以上を維持することを目標に、影響を与える要因を分析し、改善を図っている。「授業の聞きとりやすさ」、「進度」、「難易度」など総合満足度に影響しやすい項目は学部の複数の関連委員会で共有し、各教員にフィードバックすることで次年度以降の総合満足度の維持・改善を図っている。その成果として、平成28年度前期総合満足度4.0、平成30年度前期4.0と目標は達成できている。[3.1]

表2：学部授業評価アンケート（別添資料 3703-i3-5 から抜粋）

年度 学期		平成28年度		平成29年度		平成30年度		
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	
	この授業を、全体として理解できましたか	4段階評価	3.2	3.1	3	3.1	3	3
	この授業の分野に対する興味関心は増しましたか	4段階評価	3.2	3.2	3.1	3.1	3.1	3.1
	板書、プロジェクター、プリント等の説明補助手段は授業内容の理解に役立ちましたか	5段階評価	4.1	4	4	4	4	3.9
	総合的に判断して、この授業に満足しましたか	5段階評価	4	4	4	4	4	4

<必須記載項目4 授業形態、学習指導法>

【基本的な記載事項】

- ・1年間の授業を行う期間が確認できる資料（別添資料 3703-i4-1）
- ・シラバスの全件、全項目が確認できる資料、学生便覧等関係資料（別添資料 3703-i4-2～3）
- ・協定等に基づく留学期間別日本人留学生数（別添資料 3703-i4-4）
- ・インターンシップの実施状況が確認できる資料（別添資料 3703-i4-5）
- ・指標番号5、9～10（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 本学部では、大学間交流協定及び学部間交流協定に基づく短期留学を推奨しており、入学時オリエンテーションや、1年次後学期開始前のガイダンスなど、折に触れて説明する機会を設けている。留学終了後は、その内容を審議し、成果が十分あったと認められるものは語学単位として認定している。[4.1] [4.2]
- 本学部ではインターンシップを正課科目として実施しており、選択必修科目とし

て「インストラクショナルデザイン」「ボランティア体験」「インターンシップ」を開講している。また、各インターンシップを行うにあたり、マナー講座等の事前学習、事後指導も行い充実を図っている。

令和元年度より、全学の就職・キャリア支援センターならびに富山県インターンシップ推進協議会と連携し、富山県内におけるインターンシップの推進を図っている。主に、公務員や民間企業への志望者を対象とし、現在、広い視野にたつ職業観や社会人基礎力の育成などを視野においたプログラムの検討・実施を行っている。平成28年度は22名、29年度は25名、30年度は25名が参加した（別添資料3703-i4-6）。[4.2]

○ 平成29年度から教員志望学生を対象として正課科目「学校インターンシップ」を開講している。教員志望学生が学級担任教師の日常的な職務活動の場面に参加することにより、学級担任としての学級運営や、子どもの支援を間近で見ることが可能となり、教師としての資質・能力などの向上を図る機会となっている。前身の「学級担任論」から数えると平成28年度は70名、29年度66名、30年度は63名が参加した（別添資料3703-i4-7）。[4.2]

○ 平成28年度以降、シラバスの「関連科目」欄及び「授業計画」欄の記載充実を促し、平成31年度シラバスにおいては、「授業計画」欄における各回の講義内容の記載及び、「関連科目」欄に科目同士の関連性等を記載するなど、記載内容の充実を図った。このように、授業のための事前準備・授業計画・事後展開や科目同士の関連性等をシラバスに明記することにより、学生の主体的な学修を促進している。なお、授業評価アンケートの結果から、シラバスへの明記と実際の主体的学修の増加との因果関係を明確化させるためには、今後数年にわたり継続的な分析が必要であると考えている。[4.2]

＜必須記載項目5 履修指導、支援＞

【基本的な記載事項】

- ・履修指導の実施状況が確認できる資料（別添資料3703-i5-1）
- ・学習相談の実施状況が確認できる資料（別添資料3703-i5-2）
- ・社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組が確認できる資料（別添資料3703-i5-3）
- ・履修上特別な支援を要する学生等に対する学習支援の状況が確認できる資料（別添資料3703-i5-4）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 従来から、4月当初に新入生対象オリエンテーションを行っている。その中で、教養教育、専門教育、卒業要件などの教務関係全般についての履修指導の時間を十分設けている。助言教員は、新入学生に対して、大学生活に慣れることと学習の進

富山大学人間発達科学部 教育活動の状況

め方についてアドバイスをもらうため、前期には4回程度定期的に面談を実施し、学生ごとに学部共通の面談シートに毎回面談の日時内容を記録している。また助言教員は定期的な面談だけでなく、電話やメールで随時相談に応じている。[5.2]

- 本学部学生からの教職関係に関する相談・指導については教職特任教授及び附属人間発達科学研究実践総合センター（以下、実践総合センターという）客員教授にて対応しており、院生、他学部学生からの相談も受けている（別添資料 3703-i5-2（再掲））。

教職志願票の添削、面接指導、模擬授業指導、集団討論指導、小論文指導、進路相談等を、令和元年度は実践総合センター教授・教職大学院特任教授合計で 1,525 件（平成 30 年度は 1,556 件）行っている（別添資料 3703-i5-5~6）。[5.1]

- 正課科目「インターンシップ」「ボランティア体験」では、地域現場に実習に行く際に研修を実施している。具体的には、上記2科目の事前研修として模擬面接（面談）として学部教員が面談指導を行っている。さらに、学務部就職支援課と連携し、外部講師（株式会社コトノハ）によるマナー講座を開講している。各実習終了後には、本学部独自の報告会を実施し、実習先の業務内容や成果の共有を図っている。

また、教育学生支援機構就職・キャリア支援センターの教員が、インターンシップ等での経験を今後のキャリア（主に就職活動等）に生かす方法等を講義している。[5.3]

<必須記載項目 6 成績評価>

【基本的な記載事項】

- ・ 成績評価基準（別添資料 3703-i6-1~4）
- ・ 成績評価の分布表（別添資料 3703-i6-5）
- ・ 学生からの成績評価に関する申立ての手続きや学生への周知等が明示されている資料（別添資料 3703-i6-6）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 成績評価基準分布の目標に関して、平成 30 年度に教育・学生支援機構会議において「秀の割合を 10%以内に収めること」を決定した（なお、少人数クラスで実施している演習、実験、実習、実技科目については、相対評価が馴染まない面もあることを考慮し、10%以内の基準から除外している）。

上記基準が徹底されるように、令和元年度に開講されたすべての授業における成績評価の分布表（秀・優・良・可・不可の分布）を作成し、学部教務委員会では、その分布表に基づいて、開講科目の成績分布データを分析した。秀の割合を 10%以内に収めていない科目や成績分布が著しい偏りがある科目について、授業担当教員に対して注意を促すとともに、成績算出方法の見直しを依頼し、より一層の成績の信頼性・妥当性を担保するように取り組んでいる。[6.1]

- 成績評価に対する異議申立てについては、申立て手順を公表している。具体的には、(1)申立てができる条件、(2)申立ての手続き、(3)申立ての期間と結果通知期間が定められている。なお本学部では学生支援の充実に努めており、学生は、異議があった場合には授業担当教員に成績評価について確認し相談して解決できていることが多く、本学部開講授業に関して、平成28年度0件、同29年度0件、同30年度2件、令和元年度1件であった。[6.1]

<必須記載項目7 卒業（修了）判定>

【基本的な記載事項】

- ・卒業又は修了の要件を定めた規定（別添資料 3703-i6-2（再掲））
- ・卒業又は修了判定に関する教授会等の審議及び学長など組織的な関わり方を含めて卒業（修了）判定の手順が確認できる資料（別添資料 3703-i7-1～2）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

<必須記載項目8 学生の受入>

【基本的な記載事項】

- ・学生受入方針が確認できる資料（別添資料 3703-i1-1（再掲）、3703-i1-2（再掲））
- ・入学者選抜確定志願状況における志願倍率（文部科学省公表）
- ・入学定員充足率（別添資料 3703-i8-1）
- ・指標番号1～3、6～7（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 現行は、推薦、一般（前期・後期）、帰国生徒、社会人と、様々な入試を設けることによって、多様な学生の入学促進、受け入れ態勢を整えている。さらに、志願者増加対策のため2021年度からのAO入試実施を実施予定である。

現在は上記のような様々な入試を設けているが、2021年度からのAO入試実施にともない、地域スポーツコースの推薦入試の廃止、および、2017年度より、発達教育学科学校教育コースの推薦入試の廃止したこと等の入試改革により、適正な入学者数の確保に努めている。

なお、各年度の入学定員充足率は、2016年度104%、2017年度107%、2018年度106%、2019年度102%となっている。[8.1]

<選択記載項目A 教育の国際性>

【基本的な記載事項】

- ・協定等に基づく留学期間別日本人留学生数（別添資料 3703-i4-4（再掲））

富山大学人間発達科学部 教育活動の状況

・指標番号 3、5（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 第3期中期目標期間中、本学部は新しく2大学2部局と部局間交流協定を締結した。これにより学部間協定校は6校6学部となった（下表参照）。[A.0]

表：人間発達科学部学部間協定締結校一覧

国名	大学・部局名	協定締結日
ロシア	ウラジオストク・ネヴェリスキー海事国立大学	2003年3月27日
インドネシア	ウダヤナ大学文化学部	2007年8月22日
	ビナ・ヌサンタラ大学人文学部	2007年10月15日
タイ	コンケン大学教育学部	2015年2月18日
オランダ	ライデン大学人文学部	2016年12月15日
スペイン	マドリッド自治大学教育学部	2017年9月15日

（出典：富山大学ウェブサイト）

- 留学生受け入れ、ならびに本学部日本人学生の海外留学・派遣者数は増加の傾向にある。受け入れについては、平成29年度以降、本学部と部局間協定を締結したオランダ・ライデン大学人文学部日本学科からの研修生が毎年10名強の推移で来日しており、受入数は倍増した。また、外国人入試を通して私費正規生として入学する学生が近年若干名ながら見られるようになっている。

派遣に関しては、過去3年で0名（平成29年度）、1名（平成30年度）、12名（令和元年度）と顕著な伸びを示している。これは、先述の新規提携先（ライデン大学、マドリッド自治大学）にコンケン大学教育学部も加えた課外研修が例年実施され、それぞれのプログラムで日本人学生が渡航していることが要因としてあげられる。

なおこれらとは別に、本期間中に満了を迎え、本学が責任部局として関係している米国チャールストン・カレッジとの大学間交流協定は令和2年度に向けて更新された。[A.1]

<選択記載項目B 地域・教育委員会・附属学校との連携による教育活動>

【基本的な記載事項】

（特になし）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 平成28年度に、大学教員が研究を生かした探究的な授業を附属学校園において実施することを検討する組織として、人間発達科学部・附属学校園共同研究プロジ

富山大学人間発達科学部 教育活動の状況

ェクトワーキンググループ内に、「附属学校園での大学教員による授業実施検討グループ」を立ち上げた。平成 29 年度には授業実施計画を作成し、平成 30 年度から、共同研究プロジェクトグループのうち「社会科教育グループ」、「算数・数学教育グループ」、「理科教育グループ」、「ICT の教育利用グループ」による授業を実施した。その結果、附属学校園の教育に貢献できることが明らかとなったため、平成 29 年度に作成した計画を基に、令和元年度は継続して、「社会科教育グループ」、「ICT の教育利用グループ」、「音楽科教育グループ」において実施した。

各グループの具体的な取組例は、令和元年度の「ICT の教育利用グループ」では、附属小学校で、月に 1 回程度実施されるクラブ活動において、大学教員がコンピュータクラブを担当し、児童にプログラミングの指導を行った（計 6 回）。プログラミング教育は令和 2 年 4 月から実施される授業科目であるため、現場教員にとってはその指導が難しい内容であり、プログラミングを指導できる大学教員が担当者として実施したことは、附属小学校の教員にとって有意義であった。授業後に実施した児童に対する簡単なアンケートからは、児童はプログラミングを楽しみと感じながら意欲的に活動に取り組めたことが分かった（別添資料 3703-iB-1~18）。[B. 1]

- 富山県教育委員会と「富山県教育委員会・富山大学人間発達科学部連絡協議会」を設置し連携協力を行っており、富山県の学校教育の充実・発展と教育水準向上を図ると同時に学生・院生の教育に関わるものとして、「学びのアシスト推進事業」、「スタディ・メイトジュニア」、「心のサポーター」、「とやまっ子理科大好き推進事業」、「英語学習パートナー派遣事業」を実施している。いずれの事業でも、県内各校に派遣された学生は、教育現場を実地に学ぶと同時に現場での教育に貢献し、多くの学校から派遣の要望を得ている（別添資料 3703-iB-19~20）。[B. 1]

<選択記載項目 C 教育の質の保証・向上>

【基本的な記載事項】

（特になし）

【第 3 期中期目標期間に係る特記事項】

- 第 1 期、第 2 期に引き続き学部教員の資質向上を目的として教育方法改善検討委員会が主催する研修会を開催している（別添資料 3703-iC-1~6）。平成 28 年 3 月に「国立大学法人富山大学障害を理由とする差別の解消の推進に関する職員対応要領」（別添資料 3703-iC-7）が制定されたことから、学生のメンタルヘルス、合理的配慮に関する FD 研修会を開催した。富山大学では身体障害、発達障害、精神障害、その他の心身の機能の障害がある学生への支援を全学的に行うために、教育学生支援機構学生支援センター内にアクセシビリティ・コミュニケーション支援室を設置し、関係部局と連携支援を行っている。具体には、支援が必要な学生に対し、支援室と指導教員が協議し、必要な支援を提供する体制をとっている。この研修の成果として学部在籍する障害学生の学部教員と支援室の連携が良好に機能し、平成 28

富山大学人間発達科学部 教育活動の状況

年度 7 名、平成 29 年度 8 名、平成 30 年度 4 名の障害学生の継続的支援につながっている。[C.1]

<選択記載項目D リカレント教育の推進>

【基本的な記載事項】

- ・リカレント教育の推進に寄与するプログラムが公開されている刊行物、ウェブサイト等の該当箇所（別添資料 3703-iD-1～7）
- ・指標番号 2、4（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 本学部では、リカレント教育として、主に富山県内の公立学校教員に対する現職教育を行っている。「教員免許更新講習」に関しては、富山大学全体の開講（約 90 講座）のうち、本学部教員が担当した講座は、平成 28 年度～令和元年度で平均 45 講座であり、およそ半数の講座を担当している。また、富山県教育委員会が主催する教職員研修「富山県特別連携講習」において、本学部教員が約 50 講座程度開講している（別添資料 3703-iD-1～2（再掲））。[D.1]
- 第2期中期目標期間から引き続き、「富山大学人間発達科学部における幼稚園教諭普通免許状に係る所要資格の期限付き特例講座」を開設している。これは、保育士資格しかもたない現職の保育士が科目等履修生として、「教職と教育」、「学校の制度と経営」、「教育課程の意義及び編成方法」、「保育内容の指導法教方及び技術」、「幼児理解の論及び方法」の5科目を履修することにより、幼稚園教諭普通免許状が授与されるものであり、受講者からのニーズにあわせ土曜日・日曜日に行っている（別添資料 3703-iD-3～4（再掲））。[D.1]
- 指標 2 に関して、人間発達科学部における社会人学生の入学は、平成 28 年度 1 名、平成 29 年度 1 名、平成 30 年度 0 名、令和元年度 2 名となっている。指標 4 に関して、上記幼稚園講習を除く「科目等履修生は、延人数で平成 28 年度は 12 名、平成 29 年度は 24 名、平成 30 年度は 28 名、令和元年度は 23 名である。本学部は一般学部でありながら、多数の教育職員免許状の課程認定を受けていることから、教育職員免許状の取得を目的とした履修が多いことが特徴であり、他の学部にはない特色である。同様に研究生の受け入れとして、人間発達科学部は富山県教育委員会を窓口として、現職教員を研究生として受け入れており、一般の研究生とは別に毎年 12 名程度受け入れている。[D.1]

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

<必須記載項目 1 卒業（修了）率、資格取得等>

【基本的な記載事項】

- ・標準修業年限内卒業（修了）率（別添資料 3703-ii1-1）
- ・「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率（別添資料 3703-ii1-1（再掲））
- ・指標番号 14～20（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 1、2年次の助言教員制度（個別面談の実施を含む）及び3、4年次の指導教員制度を通じ、在籍中、学習指導、生活指導の両面から間断なくサポート可能な体制を整備しており、その結果、標準修業年限内卒業（修了）率は、2016年度92%、2017年度93%、2018年度91%、2019年度93%と、一定の水準を維持している。[1.1]

<必須記載項目 2 就職、進学>

【基本的な記載事項】

- ・指標番号 21～24（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 本学部は教員養成にも力を入れている一般学部であるため、多様な人材を輩出している。その結果が就職者の職種にも反映しており、就職者の職種については、教員が毎年最多、教員以外で多いのは、順に事務従事者、販売従事者、情報処理・通信技術者、サービス職業従事者である。[2.1]

<選択記載項目 A 卒業（修了）時の学生からの意見聴取>

【基本的な記載事項】

- ・学生からの意見聴取の概要及びその結果が確認できる資料（別添資料 3703-iiA-1～2）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 人間発達科学部における教育成果を評価するために、特別研究（卒業論文）の提出時にアンケート調査を実施している（別添資料 3703-iiA-1（再掲）、3703-iiA-2（再掲）、以下表参考）。アンケート調査の結果は学部教育方法改善検討委員会において分析し、その結果を各教員にフィードバックすることで、第3期中期目標の「教育内容及び教育の成果等に関する目標」に掲げる“豊かな人間性と創造的問題解決能力を持つ人材を育成”することに取り組んでいる。平成29年度の卒業生へのアンケート調査から全学共通の設問も加わり、評価方法も変更したため単純な比較はできないが、豊かな人間性と創造的問題解決能力と関係する問題解決力、責任力、コミュニケーション力、他人に対する直感力・共感性といった項目は、5段階評価

富山大学人間発達科学部 教育成果の状況

で3.5以上（平成28年度）、4段階評価で1.5以下（平成29～30年度）とポジティブな回答で安定しており、学部教育の成果として十分に達成されていると判断している。この成果を維持、さらに向上させるために今後もアンケート調査の分析・フィードバックを継続していく方針である。[A.1]

表：卒業（修了）時の学生へのアンケート結果まとめ

年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
評定	5段階評価 5：大きく養われた	4段階評価 1：十分に身に付けることができた	4段階評価 1：十分に身に付けることができた
問題解決力	3.76	1.72	1.76
責任力	3.64	1.78	1.69
コミュニケーション力	(項目なし)	1.65	1.59
他人に対する直観力・共感性	3.94	1.66	1.63
回収率	94.6%	77.4%	86.5%

(出典：卒業（修了）時の学生へのアンケート結果)

<選択記載項目B 卒業（修了）生からの意見聴取>

【基本的な記載事項】

- ・卒業（修了）後、一定年限を経過した卒業（修了）生についての意見聴取の概要及びその結果が確認できる資料（別添資料3703-iiB-1）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

○ 本学部における教育のあり方を改善検討するために、富山大学教育推進センターが行っている卒業（修了）生調査を学部評価委員会にて分析し（別添資料3703-iiB-1）、その結果を各教員にフィードバックしている。卒業（修了）生の「課題や問題を自ら解決する能力」、「組織や社会の一員として責任を持って行動する能力」、「他者と協力し合うコミュニケーション能力」、「口頭発表、説明、討論などのプレゼンテーション能力」、「教養教育等による幅広い知識」、「専門教育による深い専門知識・技能」、「幅広い知識、深い専門知識・技能の修得により、社会で活躍できる能力」に関しては、身に付けることができていたとの回答が過半数を超えており、本学部のディプロマポリシーを達成していると判断している。この成果を維持、さらに向上させるために今後もアンケート調査の分析・フィードバックを継続していく方針である（別添資料3703-iiB-1（再掲））。[B.1]

<選択記載項目C 就職先等からの意見聴取>

【基本的な記載事項】

- ・就職先や進学先等の関係者への意見聴取の概要及びその結果が確認できる資料（別

添資料 3703-iiC-1)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 人間発達科学部における教育のあり方を改善検討するために、本学部・研究科卒業（修了）生の評価、求める能力、学部・研究科への要望を採用先の小学校校長よりアンケート形式により調査し（別添資料 3703-iiC-1）、その結果を各教員にフィードバックしている。富山大学人間発達科学部・人間発達科学研究科卒業（修了）生（小学校教員採用者対象）の就職先調査より、本学の卒業（修了）生の社会人としての資質・能力（総合評価）の平均は2.9（4段階評価）、教員としての資質・能力（総合評価）の平均は2.9（4段階評価）であり、すべての項目において平均2.5以上と社会人、教員としての能力は充足していると評価された。この成果を維持、さらに向上させるために今後もアンケート調査の分析・フィードバックを継続していく方針である（別添資料 3703-iiC-1）。[C.1]

【参考】データ分析集 指標一覧

区分	指標番号	データ・指標	指標の計算式
1. 学生入学・在籍状況データ	1	女性学生の割合	女性学生数／学生数
	2	社会人学生の割合	社会人学生数／学生数
	3	留学生の割合	留学生数／学生数
	4	正規課程学生に対する科目等履修生等の比率	科目等履修生等数／学生数
	5	海外派遣率	海外派遣学生数／学生数
	6	受験者倍率	受験者数／募集人員
	7	入学定員充足率	入学者数／入学定員
	8	学部生に対する大学院生の比率	大学院生総数／学部学生総数
2. 教職員データ	9	専任教員あたりの学生数	学生数／専任教員数
	10	専任教員に占める女性専任教員の割合	女性専任教員数／専任教員数
	11	本務教員あたりの研究員数	研究員数／本務教員数
	12	本務教員総数あたり職員総数	職員総数／本務教員総数
	13	本務教員総数あたり職員総数(常勤、常勤以外別)	職員総数(常勤)／本務教員総数 職員総数(常勤以外)／本務教員総数
3. 進級・卒業データ	14	留年率	留年者数／学生数
	15	退学率	退学者・除籍者数／学生数
	16	休学率	休学者数／学生数
	17	卒業・修了者のうち標準修業年限内卒業・修了率	標準修業年限内での卒業・修了者数／卒業・修了者数
	18	卒業・修了者のうち標準修業年限×1.5年以内での卒業・修了率	標準修業年限×1.5年以内での卒業・修了者数／卒業・修了者数
	19	受験者数に対する資格取得率	合格者数／受験者数
	20	卒業・修了者数に対する資格取得率	合格者数／卒業・修了者数
	21	進学率	進学者数／卒業・修了者数
	22	卒業・修了者に占める就職者の割合	就職者数／卒業・修了者数
4. 卒業後の進路データ	23	職業別就職率	職業区分別就職者数／就職者数合計
	24	産業別就職率	産業区分別就職者数／就職者数合計

※ 一部の指標（指標番号8、12～13）については、国立大学全体の指標のため、学部・研究科等ごとの現況調査表の指標には活用しません。